

令和5年度〔自己評価報告書〕

| | | |
|------|---------------|-------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 4 | 川崎市立橋高等学校 全日制 | 高井 健次 |

| 学校教育目標 | | 今年度の重点目標 | |
|---|--|--|--|
| 真理と正義とを愛し互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成 1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める 2 協同友愛 3 自治の精神の確立 4 勤労愛好の習慣の体 | | ・基礎・基本の定着に基づく応用力・課題解決力及び自己学習力の育成 ・個々の進路を考えた進路指導・生徒指導・総合的な探究の時間・特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成 ・人権尊重教育・道徳教育・共生教育等の推進と共に、ESDのさらなる取組により豊かな心と社会貢献できる人材の育成 ・開かれた、信頼される学校づくりと活力あふれる教職員組織の構築 | |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 | |
|------|-----------|--|---|--|
| 1 | 教育課程学習指導 | 授業内で教科書やICTを活用し、様々な考え方を提示しながら知識の理解を図る。その理解した知識を活用し、様々な課題に様々な問題を解決しようとし、意欲的に自主的に取り組めるようになるが、するために活用していくために、自分の身の回りの課題に置き換えて考える等、また個々の思考を表現できるような場面を増やすよう、授業に工夫を凝らす。そのため、言語活動やアクティブラーニング、ESDによる学習活動を積極的に授業に取り入れていく。 | 学校評価アンケートの結果から、個々の生徒に対する理解力に応じた教科指導について、教師側と、生徒側の考えと、まだ差が見られる。また、家庭学習が不十分であると考えられる生徒が多い。早朝や昼休み・放課後などの補習や定期考査前に自習を進められる環境を整えることが急務であると思われる。また、新学習指導要領や大学共通テストへ準備の研鑽をさらに深めると同時に、基礎・基本の定着に基づく応用力や問題解決力、自己学習力の育成に努めていく必要があると思われる。 | 新学習指導要領が示され、高大接続計画に向けた新しいカリキュラム編成で実施して2年目を迎えた。新カリキュラムで実施した1年目を振り返り、本年度は新しいカリキュラムをさらに変更し、生徒のニーズに合わせたカリキュラムで新しい学年をスタートした。カリキュラムにとどまらず、家庭学習の不足を補うため、宿題や補習課題を課し、自己学習の習慣化をサポートしていく必要がある。その為各学年とも、朝学習(自習)に力を入れている。これからは、学習委員会などを有効に使い、全校で共通して取り組む体制を整えたい。 |
| 2 | 進路指導 | 3年間を見通した進路計画に基づき、各学年に応じた段階的な進路指導を実践する。また、選択制カリキュラムに対応したキャリア教育や外部講師による講演、大学見学(体験授業)などを実施する。進路指導ガイダンスや講演会(セミナー)を開催し、内部・外部からの一貫性のある指導やサポートを計画的に行う。個別相談の時間を確保する。模試は計画的に行い、進路実現に向け、生徒と向き合いながらきめ細やかに指導する。保護者へ最新の情報提供を努めた上で生徒一人一人の進路実現のサポートを行う。 | 各学年における進路ガイダンス、進路講演会およびセミナー、大学見学(訪問)などを実施した。これにより、生徒一人一人が自己理解を深めるとともに、自分の将来に向けてじっくりと考える時間をつくることができた。3年生の推薦希望者においては、なりたい自分を明確にするため、キャリアプランニングシートを活用し、進路実現につなげることができた。2025年度(新課程)入試や多様化する大学入試の最新情報を集め、生徒の進路実現に向けてしっかりと対策していくことが今後の課題である。 | 自己理解を深め、なりたい自分をしっかりと描けるよう、より多くの体験的な学習や外部講師による講演会の活用などを工夫していく。大学入試に関する最新情報等については、保護者会を通してしっかりと伝えていくことが重要だと考える。さらに、VUCA時代を生き抜くために必要な力の育成という視点も教員全体で共有しながら、生徒一人一人が自分の未来を描けるようサポートをしていく必要がある。 |
| 3 | 生徒指導 | 「安全で安心して学べる環境づくり」を最優先に、主体的な活動を図る取組で、生活面や身だしなみなど基本的生活習慣の習得を図り、指導を行う。また、互いを認め合い、尊重し合いながら学校生活が送れるよう指導していく。教育相談面での取組については、保護者だけでなく、学校カウンセラーや外部専門機関との連携をより一層密にし、特にサポートの必要な生徒についてはケース会議を開き、職員全体で関わり、一人一人に対してきめ細やかな対応ができるようにする。 | 学校生活を通して主体的に行動できる力を育成していく必要がある。今後様々な投げかけを生徒に対して行い、自ら考え、行動できるように促していきたい。また、いじめの問題や生徒間のトラブル、心の悩みなどの生徒相談に対して、普段からの生徒への声掛けや適宜アンケート調査を行い、生徒の行動を常に注視していくとともに、サポートの必要な生徒については、ケース会議などを開き、管理職、担任や養護教諭と連携を取り、生徒たちの様子をいち早く察知できる体制と生徒に寄り添ったサポート体制をとっていきたい。 | 年度当初に生徒指導についての共通理解を教員間で図り、連携をより深めることが重要である。教育相談やアンケート調査、面談、ケース会議など、日常生活の中で様々な教員が関わりながら解決できるよう、よりきめ細かい環境づくりと支援技術の向上が大切であると考えられる。また、生徒が主体的に活動できるように、部活動や学校行事などに自ら積極的に参加できる指導を継続していくことも重要であると考えられる。 |
| 4 | 生徒会指導 | 橘花祭(歌合戦、体育祭、文化祭)や各生徒会行事(対面式、部活動紹介、生徒総会、三送会)の企画・運営及び、日常的な組織運営(代議員会・各種委員会・部活動・壮行会等)を、分掌・学年と連携し、生徒が主体的に取り組めるよう支援していく。また、保護者や地域等とも連携し、生徒会活動が充実するよう環境整備と指導を行う。今年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策にも考慮に入れ、各行事が実施できるよう努める。 | 生徒たちが掲げた橘花祭テーマは「Re:start」。昨年まで止まっていたものを再開させ、活気のある行事を復活・作成していくこととする気持ちが前面に出たものであった。実行委員会の企画部中心に前年度までの課題の改善策を打ち出すと共に、新たな取り組み、まだ収束していないコロナ禍であることも踏まえた内容等の検討をし立案がされた。各行事では多くの生徒が主体的に取り組む様子が見られた。生徒たちで新たに作り出しているという意気込みも感じられたが、一旦途切れたコロナ禍での行事の継続性のため、見直しをもった活動がなかなかできなかつたことが来年度以降の課題である。 | 来年度からは新型コロナウイルス感染症予防対策等での制限緩和が見込まれる。今年度から積み上げ再開させた諸行事でより見通しをもった企画・運営ができるよう十分な支援が必要だと考える。さらに、生徒のリーダー性を育てるとともに、全校生徒に対する生徒会への参画意識を高めていけるよう指導していきたい。 |
| 5 | 部活動指導 | 各部ともに、基本的な技術の定着を図ることはもちろん、肉体的にも精神的にも健康や安全に配慮する。そして、それぞれの目標に合わせた活動ができるように練習計画を立てて行う。指導方針において、助言を丁寧におこない生徒に寄り添う指導を目指す。また、基本的生活習慣を定着させ、さらに挨拶や礼儀、活動場所の清掃などの指導を丁寧に行い、部活動の成果が日常生活においてもその行動や言動に反映されるような指導をする。さらに今年度も感染症予防対策に十分配慮した活動が行われるよう努める。 | 今年度の部活動指導方針として立てた、「助言を丁寧におこない生徒に寄り添う指導」を実践し、運動部、文化部ともに部活動が活発に行われ、複数の部活動が全国大会への出場を果たし、関東大会にはさらに多くの部活動が進出した。各部とも、限られた時間の中で、工夫して技術の向上に力を入れ、日々の努力が実績となって表れた部が多かった。また、基本的生活習慣や挨拶、礼儀、活動場所の清掃などが、学校生活に留まらず、毎日の生活の中でも発揮できていく。学習面においては、部活動とのバランスがうまく取れず、ストレスとなる生徒も存在するため、時間の使い方の工夫など継続して支援していくことが大切である。 | 指導において助言を丁寧に行い、生徒に寄り添う指導によって充実した部活動となった。学校生活における学習・部活動・行事のバランスを上手に取り、前向きで充実した毎日が過ごせるよう、指導・支援を丁寧に行っていく。また、部活動の時間が有意義で成長につながるようするため、各部活動の活動を通してこの社会状況の中で今まで以上に地域や保護者のご理解や連携を密にして、協力していただくことが必要と考える。毎日の活動の中で指導・支援の仕方を考え、練習計画や練習内容を工夫することがさらに必要であるとする。 |
| 6 | 健康安全指導 | 本校の健康安全面の課題を踏まえ、学校安全計画を立案し現状の改善、向上を図る。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染予防対策に関して、感染状況に注視しながら感染予防・感染拡大防止に努める。また、生徒の心身の発達段階に応じて、健康で安全な生活を営むのに必要な健康管理能力の育成を図るため「薬物乱用防止教育」「性教育」「けが防止」の講演会を実施した。教職員対象に「食物アレルギー対応」「心肺蘇生法」の研修会を開催し、共通理解を図るとともに、緊急時の校内体制を整えることで生徒が安心して学校生活ができるようにする。 | 生徒が主体的に自己の健康を保持増進するために、年度当初に交通安全講演会を取り入れ、薬物乱用防止教育講演会、性教育講演会を実施することで系統的に生徒の健康安全に対する意識を高めることが出来た。職員間では生徒の個々の健康課題の周知と対策について共通理解を図り、充実した連携が出来るような研修を実施できた。一方、生徒のメンタルヘルスに関して学校内で解決が難しい症例が増えている。適宜ケース会議の実施や学校カウンセラー、外部機関につなげるなど専門的な方々に協力を得るなど連携をしながら、問題解決に向けての支援が必要である。今後も多様化・複雑化する健康課題を抱える生徒が増えることが予想されるので、より充実した支援のできる校内体制が必要である。 | 健康教育の講演会や感染症予防対策において、家庭・地域・外部機関との連携を踏まえた学校保健に関する組織の運営の工夫を図り、教職員全員で学校保健に関する組織的な活動の活性化を図る。生徒の心の問題については、校内組織を充実させ、スクールカウンセラー・学校医・家庭・医療機関との連携を図りながら、その中心的役割を果たせるように努める。メンタルヘルスに関する職員研修を行い、教員の知識を高め、生徒理解に努める。また、生徒のニーズに合わせた講演会などを企画実施し、生徒が安心安全に学校生活が送れるよう取り組んでいきたい。 |
| 7 | 国際理解教育 | 国際理解教育を通して、世界が抱える諸問題について生徒自らが問題意識を持ってアプローチできるように指導していく。将来的に世界に貢献できる人材となれるように様々な機会を提供する。国際協力機関(JICA・WFPなど)への訪問、高大連携による途上国理解プログラム、国際的な舞台上で活躍している講師を招いての国際理解講演会、多文化共生を理解するためのワークショップ等を実施していく。また、国連の目標であるSDGsについて学び、自分に身近なところから考え、行動、発信していくことを促す。そして、コロナによる規制が緩和されたため、海外研修や留学生受け入れを企画し、積極的に実施していく。 | 海外研修を8月に無事実施することができた。1年国内語学研修や、2年スペシャル・ウィークでの多文化理解学習(WFPやJICA横浜訪問など)、ALTを10人集めた交流も実施できた。その他、国際理解講演会や高大連携、そしてIVYリーグアムフト選手との交流等を通し、生徒達は校外の様々な人との交流から刺激を受け世界が抱える諸問題に目を向けることができた。生徒自らが探究した課題解決方法を発表するだけでなく、実際に実践できるレベルまで深めることが課題である。 | コロナによる規制が緩和され、留学生の受け入れや海外研修の実施を可能な限り実施する方向で行った。来年度は、さらに対面での交流をふやし、地球市民としての国際感覚を磨きたい。そして、プレゼンテーションや交流を通して自らの考えを発信する力も鍛えられていきたい。このような主体的・対話的で深い学びをさらに発展させ、持続可能な世界の実現に向けた実践へとつなげることを促していきたい。 |
| 8 | スポーツ交流 | 高大連携事業の一環として、メディカルチェックを国際武道大学の協力の下、1年生・2年生で実施。また、スポーツ総合演習のスポーツ行事の企画運営の一環として、校内新体力テストに取り組み、市内小学校において新体力テストの企画・運営・サポートの形で参加。さらに、玉川中学校や保育園児と体育・スポーツでの交流をはかる。 | 様々な交流の機会が多く設定されており、どの交流に対しても生徒たちは積極的に取り組んでいる。スポーツリーダーを目指した交流の中で、企画力の向上・運営方法の学習、精神面での成長など多くのことを身につけることができた。課題としては、多くの時間を要するこれらの企画・実施の中で、「自分の時間の使い方」「実践力」「進化・発展させる応用力」をさらに身に付け、発展させることが挙げられる。 | 1学年において中学校との交流、2学年においては幼児との交流をスポーツ科の新たな取り組みとして実施してきた。幼児・小学生・中学生・大学生にとってお互いが成長できる内容を追求していくことが必要である。スポーツ科の生徒には社会参画、及び社会に貢献していく態度を養うと共に多様な価値に触れることでより豊かな情操を持ち、人間味あふれた人格の形成を図ってきたい。また協力していただいている各教育機関においても同様にスポーツに関わる意義を伝えていきたい。 |
| 9 | 組織運営 | 校務分掌や委員会、教科、学年からの要望や問題提起に対して、運営委員会内で検討し、該当部署と連携しながら対応を行っている。生徒指導等に関わる内容や早急に対応したい案件は、臨機応変に臨時職員会議を招集し、生徒の学校生活をサポートできる体制を整えている。近年課題となっている分掌変更や人数調整等については、よりよい組織となるよう問題解決にあたる。 | 近年課題となっている組織については、令和7年度から始動できるよう議論を重ね、分掌の数や業務内容等の見直しを図った。大きな変更を試みているため、来年度も引き続きスムーズな運営に向けた準備を行っていきたい。また、学習指導要領に基づく観点別評価やICTの活用に関しては、引き続き全教員で研修・研究を行っていき必要があるとする。 | 新組織がうまく軌道に乗り業務が進められるよう、また、更なるよりよい組織を目指すため、各校務分掌や各学年等と連携を図り、出てきた課題の共有や対応、改善等に取り組んでいきたい。また、学習指導要領に基づく観点別評価やICTの活用については、各教科での検討を行うとともに、他校の取組等の情報を収集しながら、研修や研究を推進していく必要があるとする。 |
| 10 | 開かれた学校づくり | 新型コロナウイルス感染症が第5類になり、保護者をはじめとし学校行事・生徒会行事・PTA活動への参加者が戻りつつある。校内担当者間での連携を密にとりながら、地域・保護者・学校の3者が一体となって充実した学校生活の構築に努める。地域からの意見や要望を集約し、PTA活動もより効率化していく。授業や学校行事等を常時公開し、生徒の活動をより多くの方に知ってもらおう。また、地域や保護者との情報交換・意見交流の場を多く設定し、学校教育活動への理解を深めていく。 | 地域・保護者の理解と協力のお陰で、今年度も学校教育活動を円滑に行うことができた。参加者増加の傾向にある行事に関しては、PTAの意見を参考にし、よりスムーズな運営をすることができた。また、PTA活動の一環である懇談会については、保護者と各学年との直接連絡を基本として設定したが、学年やクラスの間で若干意思疎通がうまくいかない場面も見受けられた。また、地域や保護者からの様々な意見や要望は教員間で共有し、学校内での議論を促進した。 | 地域や保護者への情報発信の手段も、ペーパーレスの時代の変化も感じながら、ホームページの更新を頻繁にしたり、「みまもるめ」という保護者に直接、情報を配信できるツールを活用できるように検討していく必要がある。保護者からは、学校からの情報が家庭に届いてこないという意見を数多く耳にする。このことについて、生徒への指導を徹底し家庭への啓発活動も引き続き実施していく。学級懇談会については、これからは保護者と学年・担任との直接情報交換を基本とし、より有意義な会になるよう努めていきたい。 |

| 学校関係者の評価 | 学校運営のまとめ |
|---|--|
| ・生徒の地域交流は、地域社会に貢献しており、住みよい街づくりにつながっている。 ・業務改善の一環として、ペーパーレス化等、できることから仕事の効率化を図っている。 ・ICT活用を推進し、教員の授業力向上とさらなる授業改善を図って欲しい。 ・家庭学習の取り組み状況は対策が必要ではないか。 ・ユネスコスクールの参加に関しては、全職員の共通認識を再確認し実践していく必要がある。 ・人事異動で長期在職者が少なくなる中で、これから増加する再任用や定年延長も考慮しながら、課題である学校運営の効率化と円滑化を図るため、今、取り組んでいる組織改編をスムーズに進めていって欲しい。 | 今年度の自己評価は、昨年度と同内容の学校評価アンケートを、生徒・保護者・教員に対して実施し、その結果を全教員で共有し自己評価につなげた。令和5年5月からは感染症の取り扱い基準が変更となり、生徒の諸活動もほぼ以前と同様に行えるようになったが、一度途切れてしまった生徒の自主的な活動は、なかなか元に戻すことができず、教員のサポートがより必要となった。しかしながら、この自粛期間の間にかかなりの教員が異動となったこともあり、サポートには時間を要することとなった。部活動に関しては、時間的にも活動場所に関しても自由が利くようになり、多くの場面で結果を残すことができ、学校の活性化につながった。学習面に関しては、中学の3年間が自粛により制限された生徒(現1年生)が入学してきており、アンケートの結果から多くの生徒が学習方法に課題を抱えていることが分かった。学習指導要領の改定に伴い、教育課程も新しくなり、そこで掲げられている主体的対話的学びの実現に向けて、教員の授業に対する意識改革・継続した授業改善が望まれる。今後も保護者に寄り添い外部機関とも連携をしながら、本校として育てたい生徒の育成に向けて取り組むと共に、本校の将来を見据えながら現在進めている学校組織の見直しに力を注いでいきたい。 |